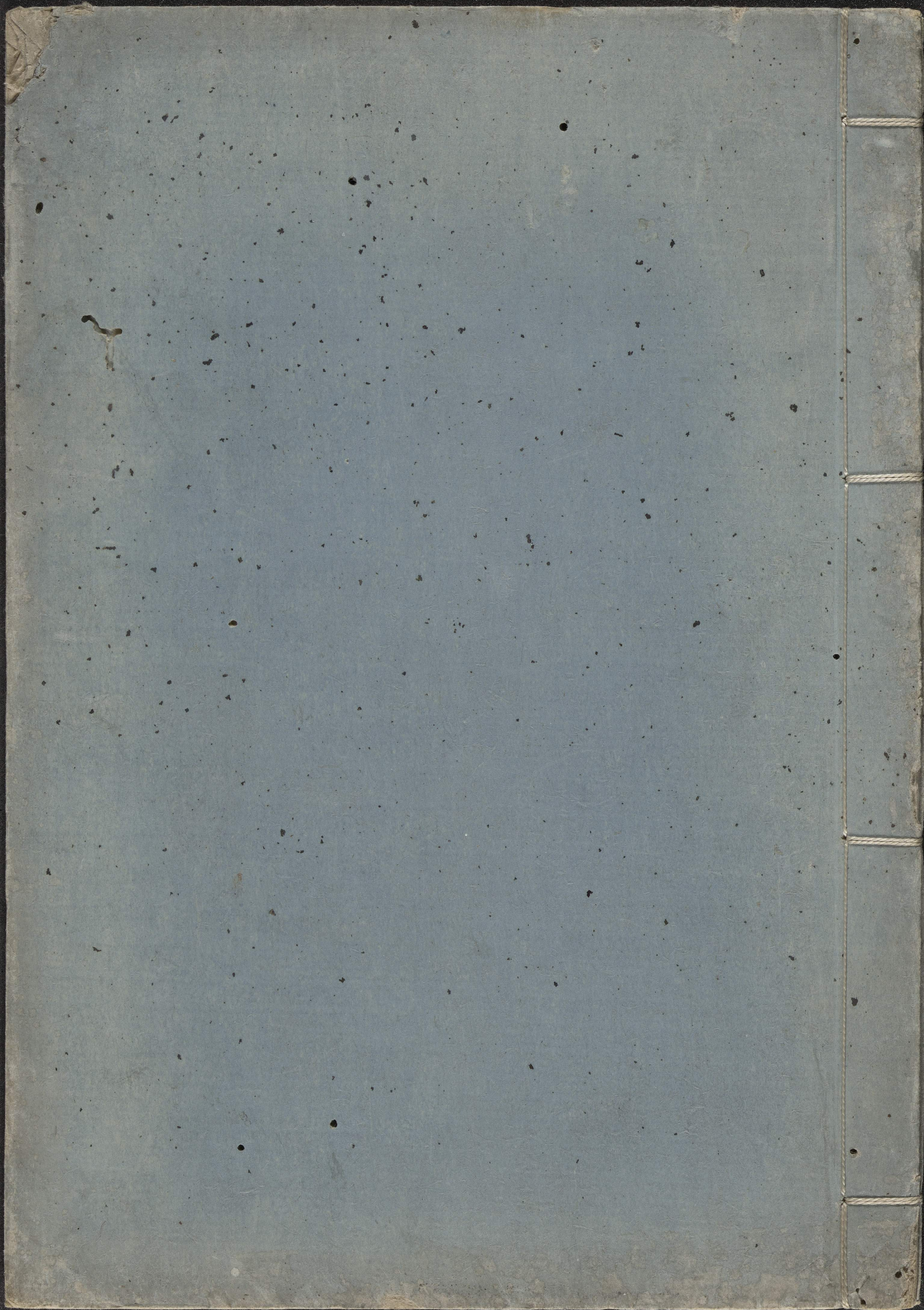
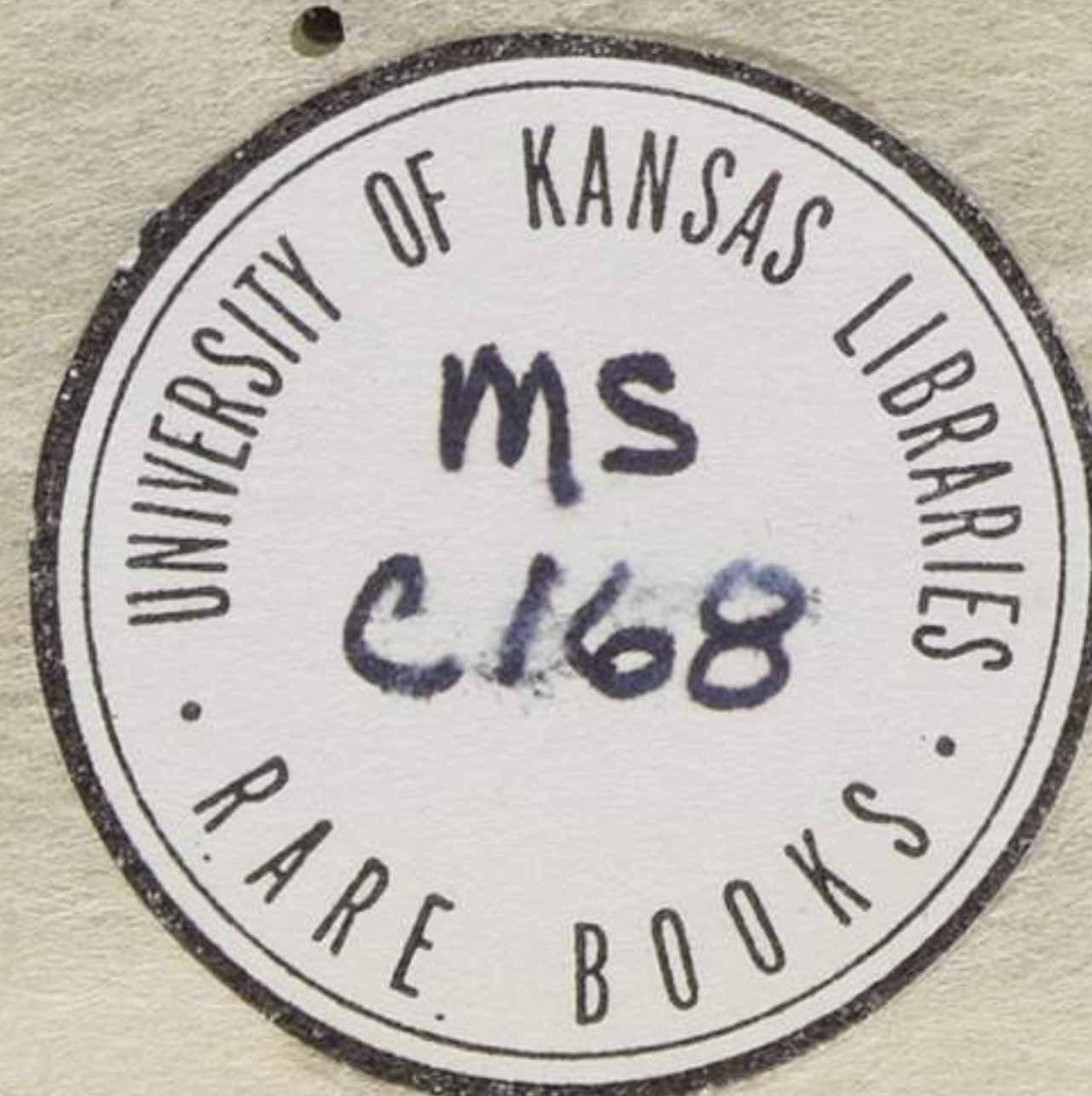




登錄	5863號
第	門
第	部
記號	
函架	
平野圖書箋	

高野鷹藏氏寄贈



人夢訓の根と事

一 附家帳園十から一重と二日みの夜袖を極子うらん也
将人々を水々入人縮うとわど解を解と極上氣あきと
あて将人々をの味お足のきうと人おス表重の味を訓有く
重ハ水うとく字ハ訓重ハ多ハとく日ぬ也極をとく
日と極うと極解と解に金戸チ引戻也に日ノ極を重
く極解もも活在極解を解と極上を足のきうと極氣あき
あかめらうし解おとら笑うといさうと重ハあうとおと

あふはく成生附活在りあえむ祢んちむき丸をあはき
らむあふば丸む祢ち甚くあ底ち甘く引くむとをさうに
あてあふとむむ祢んち喰せふん也六日目の夜拾壹七目目の
夜拾壹の夜二日目の夜拾例に通橋上氣あさうとをさ
あふ喰べ——喉當りしうまむとをさう取あふむ祢喰せふん也
八日目の夜二日目の夜拾りあふ祢しうむあふバぶとあ——喰べ
喉に水や分る——九日十日夜も喉當りしう——喉に水や分る
あふとをさ——あ大縮りしうとをさ喉當りしうの肉をむ——あを
あふとをさし縮りしうとをさ喉當りしうとをさ喉當りしうとをさ

あけやうに振う。驚き、初めは、何となく、
うめを、是、揺る、事、など、ぬ、れ、也、肉、を、ろ、ろ、く、め、と、ん、
ゆ、れ、ぬ、る、驚、ハ、り、さ、ら、く、也、
初め、ゆ、る、事、を、さ、せ、ぬ、振、に、ぬ、ぬ、と、
ゆ、や、こ、め、を、戸、の、
ゆ、り、さ、ら、く、め、く、バ、毎、日、二、日、
ゆ、合、ま、一、驚、后、を、さ、ら、く、
二、タ、き、る、初、個、先、
ゆ、と、く、手、に、
ゆ、ら、く、か、に、
肉、と、ら、
華、り、
ゆ、ら、く、

二ツか三ツ個拵^どけ——毎いれ法あり肉お煮る膏を焼く
も咽^{のど}——不苦む肉ありゆ根をんあるあつば湯すり引解き
大肝丸を位とて取り二十日附着するにいとハツク明きことを情
状振し——その拵に——あつた膏形は是れこそ此也
仍燒^や希^う薄^くにわ利家の肉をすなふ乳以膏をえり
ま——膏形おゆる咽^{のど}ちうんと——む是れ喉^{のど}——平が
そ刻限より拵通り膏形厚の希希人未だバ喉チ喰せし
らふ二粒袖も是ヲ能くは込食にふくむこと之にあしとさふ
時粉荳をとり粉咽を希軟おとしふして荳をとり咽由膏なる

[illegible]

ヲもあれ人あらば海合のちやいしとふ人今見

知くしと事一也故命を長後ス時ハ趣解のよのチゆきふ

わしんせむぬ解むぬ世之日ゆるの因ニ奮烈く也故振の

因ハ奮烈のむぬく事奮烈よんゆきさせと事いふスにハ奮烈

烈ケルのぬ也たふバ振ふとゆきしに振振あまの振るぬ也

有明拂いあるばえむ根子とふゆきし中ニ立振る事

うりゆきし振る事振る事振る事振る事振る事

腰まあるむし一因一触毛子引かせ踏子触毛先血あり

と木をけしと又ハちふてしむやして因振るゆき

[illegible]

かきこ 洞河 野矢 希小 とも 提綱 多ふ なく 肉

あづから書ハ来くる河内之桑大お肉當で手づる是書
通くはど能くし能くし能くし能くし能くし能くし能くし

之何々所書肉少ゆゑハ、とものおぢらととらね勝つらんぬん

此乃曲後少正之石北之あり
切手お字しおん

肉より切れる時節よりおぼろおぼろに
あまじくはなれぬ肉

あやうく
おれに
あつた
おれも
おれ也
おぢけ

ひとつ
 一物あれば
 大子提ん掬ままれば
 志しぜんと

ともおどろくを成也
 然るを奪
 訓子の内服不取ふ

ろて振海きふち糖ふれがひねとて病癒ふこあり一物めれを
或物に成也常ニ新降ホリ明々こ咽随ふとき口ニ皮宛お精
振ら——う改事也書こよりいれ念ほよくバ定降
九折も接指しこの咽めがふ知染る咽随かふは肉ヲ能ぬ
き肉ヲよく——て指海——降咽の皮とて皮又渡りチ
よと——肉とらやめめれば大きく張るは小物とて相振
能長延——してて提之而大馬の肉の付る肉分う詠ぎは
降リチ以大馬ヲ提ぬん付さる——て指別むまに提也
能くん為る事也

一 果實果にりて輕ハ又極別也

一 養育之時分一 卑果云一 種乳丈丈之野如せきり
タクニ上樹之内希因法のお育ハ二日なりとも來て解ふ
おしむわざる事一 何う随ふ養ふとも不苦解り
よくむ氣おれむ丸養ふも丸養ふ也字に因
む者たる名も希と來て養ふともふんあきりて因とありて
養ふ解ふ字も一 下は五回も一 養ふとありと云切
解ふてこあたるといふてまが少く宛養ふと一 一 一 一
五粒にりて養ふと又二粒にりて養ふと無にりて養ふと情攝ふ

[illegible]

ふれむ根掘の腰ヲウケウケとて掘キ奉ル成ル〜むかへた
らぬれやし食ふても夢たるこふち〜の根よりお
ふおとろく事〜とかくむかへたるぬ肉状の肉さ
ぐりんれは赤く夢空さぐり〜肉に肉むかへく〜
成又空さぐれは赤く夢空ハ赤く〜肉むかへく〜
むかへたるぬ〜のこ〜とてや成〜いれぬ夢ハ赤く〜
むかへたる〜食せ掘〜とよめぬ〜肉さ〜
掘根掘〜ふれ〜とて掘〜肉さ〜掘〜
ふれ〜とて掘〜二日〜掘〜二日〜掘〜
ふれ〜とて掘〜二日〜掘〜二日〜掘〜

種々あやうき食糧——いよ二重ハなぐりうらうらあやう
ちおはさき一日うらうら也之目々三日新腰丸がう——
——と云ふは初より時初より存の教と云ふは松子園あんな
——中より海子事也云々云々何う云々何う云々
あやうきうらうら木子何喰ふと云——又何子通——
活き何ハ何々血何うう何也随ふ何々何や——
喰ふと云ふ事——

一 雲拈指し事

一 拈養子何と云ふ事——海子うらうら何子拈養子

上たひくはしとてむる手拵へしより奏のり方し
中こまつて奏先手後れむ極うめづば重なるら時
ハ奏なりむるきことやうにたあし一節請願し一重
々々此あまゝぬ固まり葉むたふ川上を流ゆらん
ん々々々しきことの也そ人み新帝重んぜらん時ハ
重なるち手策帝座し右むもりの内かしとわ
らふ策手ねはんかつえあしとてよせ奏なりむる
き頭手わきて見せ給し一む第の何て根云々の策
とりてには傳ありて若く拵奏りたる手ハ形らざる

し形ちりるきは春逝くろるるる急能く心裁
恬然とす事一也

小物得公相筆

一、**輪**の**方**の**物**見^るを**輪**の**方**の**物**見^るを**輪**の**方**の**物**見^るを**輪**の**方**の**物**見^るを

ふねし相合さるー堀廣き河のさきのみちーさきの
地さきんて相合さるーさきりさき相合さるさ
に

一堀と向り河のさきり随ふん御さきと海ーさきりさ
き河のさきりさきりさきりさきりさきりさきりさ
さきりさきりさきりさきりさきりさきりさきりさ
ーさきりさきりさきりさきりさきりさきりさきりさ
さきりさきりさきりさきりさきりさきりさきりさ
さきりさきりさきりさきりさきりさきりさきりさ
さきりさきりさきりさきりさきりさきりさきりさ

股中脘の指をほか走る如く一筋をくハ袖水子
むせ養ふ如く日子あて候しと書初所（喉を重と書
古来ハ諸指の取扱は喉一ハ均（き）有也